

# ローズグラスについて

今夏岡山県での草地技術研究大会で栃木県酪農試験場の高橋仁技師の発表されたローズグラスについて要旨を掲載いたします。

## (1) 播種期と収量の関係

ローズグラスの播種期は4月下旬～6月と幅は広いが、栃木県農業試験場鹿沼分場との連絡試験の結果では次表のとおり、早播きほど多収となっている。しかし低温と乾燥のため発芽は不整で遅延し、一部に枯死するものがみられた。適期は平均気温15～16℃と考えられる。試験の結果では、4月下旬～5月下旬播種までは収量差が少なく、6月播種では減収となりその差がみられる。

試験区	生 草 重 (kg/a)					同左に 対する 比(%)	乾 草 重 (kg/a)					同左に 対する 比(%)
	1番刈	2番刈	3番刈	4番刈	計		1番刈	2番刈	3番刈	4番刈	計	
4月20日	254.9	180.8	260.0	150.6	846.3	100	41.8	28.6	50.2	25.8	146.4	100
5月10日	196.2	207.3	249.0	148.9	801.4	94.7	30.4	33.2	47.6	25.3	136.5	93.2
5月30日	279.0	209.8	311.4	—	800.2	94.6	40.2	36.7	62.3	—	139.2	95.0
6月20日	169.3	241.0	228.0	—	638.3	75.4	26.3	58.3	37.6	—	122.5	83.7

## (2) 播種量と収量の関係

播種量試験では、アール当り100gと150gの収量差はみられず、また農事試験場畑作部、作付第1研究室の成績においても、50gと250gとの間には、1～2番刈りに収量差がみられたが、総収量には、さしたる影響がないとの結果がでている。

上記のことから、アール当り100gで十分と考えられるが、今年も試験継続中である。なお、当場で採種した種子の発芽率は60～80%である。

試験区名	生 草 重 (kg/a)					同左に 対する 比(%)	乾 草 重 (kg/a)					同左に 対する 比(%)	備 考	
	1番刈	2番刈	3番刈	4番刈	計		1番刈	2番刈	3番刈	4番刈	計			
4月20日	100g播	270.0	112.3	216.9	106.1	705.4	100	48.1	18.3	42.7	19.6	128.7	100	栃木農試鹿沼分場 成績 堆肥200 石灰10 N4.0 P3.0 K3.0  農事試験場畑作部 堆肥200 石灰6 N4.5 P4.5 K2.8
	150g播	260.5	116.2	217.4	108.6	702.7	100	46.9	18.5	42.0	20.3	127.7	99	
5月10日	100g播	257.4	102.8	206.9	114.3	681.4	97	37.8	16.1	38.5	21.4	113.8	88	
	150g播	251.4	112.4	204.3	115.5	683.2	97	43.7	17.8	41.7	21.4	124.6	97	
5月30日	100g播	211.1	175.3	314.8	—	701.2	99	36.3	26.3	64.5	—	127.1	99	
	150g播	195.8	159.1	313.6	—	668.5	95	37.6	23.7	60.3	—	121.6	94	
6月20日	100g播	46.0	297.9	302.6	—	646.5	92	5.7	47.7	56.3	—	109.7	85	
	150g播	80.6	269.7	304.8	—	655.1	93	9.8	43.4	56.1	—	109.3	85	
5月16日	250g播	354.7	166.6	223.4	236.7	981.4	—	51.8	26.1	50.5	29.6	158.0	—	
	50g播	275.6	270.7	230.0	214.8	991.1	—	40.1	43.0	45.5	27.7	156.3	—	

## (3) 施肥量

ローズグラスは肥料の吸収力がきわめて旺盛であるため、多肥の効果が顕著である。

既存の夏型飼料作物との比較試験では、標肥区でアール当り、N 16.5 kg、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 12.5 kg、K<sub>2</sub>O 12.0 kg、堆肥 200 kg、消石灰 10 kg、多肥区は堆肥、消石灰は標肥区と同量で化学肥料は倍量を用いたが、この成績では、いずれの作物も多肥により20～30%の増収がみられ、とくにローズグラスはニューソルゴー、トウモロコシとともに、その傾向が顕著である。また、農事試験場畑作部の成績でも多肥の効果が大きくでており、アール当り生草で1,080 kg、乾草で157.8 kgをあげている。

多肥区は倒伏、再生障害の危険が多いが、少肥区は雑草比が高く、葉重比が低くなり品質が劣るように思われると報告している。